

地域・保護者・学校関係者への教育長メッセージ ⑳  
『全国の魁となるプログラミング教育』

コロナ第七波が始まったのでしょうか。全国的にコロナの広がりを心配する日々が続いています。そんな中、今年は梅雨明けが早く、熱中症対策にも気を遣わなければならない毎日となってきました。エアコンの活用と教室内の換気の徹底、学校にお願いし、この二年間と同じ夏が始まりました。いつまでこんな苦しい状況が続くのでしょうか。

今年の前期の学校訪問が終了しました。学校ではほぼ全学級でプロジェクタや大型画面のテレビを活用し、その内半分程度の学級がタブレットによる授業を行っていた学校が何校かありました。忙しい中、先生方の積極的な取組に感謝しているところです。とにかくツール（道具）として活用しないと、どのように授業の中で生かしていくのか考えることができません。教材として、また教育方法として、チョーク一本の授業を克服するきっかけにしてください。

先日の六月定例市議会で「デジタル田園ロボット・プログラミング教育事業」を認めて頂き、予算化できました。「人型ロボットと一緒に楽しく役に立つプログラミング教育」が本格化しました。人型ロボットとブロックロボットを各学校21体ずつ配備します。この事業は市長の熱い思いであると共に、私にとっても、また学校で頑張っている先生方にとっても、全国の魁としてまさに夢のプログラミング教育です。AIロボットという子どもたちにとって見える化された学習材で学ぶことができます。「プログラミング教育を学びたいので、津島の学校へ通学しよう」そんな津島の教育の大きな魅力になると思います。プログラミング教育のねらいは「論理的思考力」を育てることです。正しいと分かった知識（情報）を筋道立てて考えることです。論理的思考力により、自分の生き方に対しても見通しをもってほしいと思います。各学校で一体一体のロボットに名前を付け、子どもたちの学習パートナーにしてください。ICT支援員さんや大学ボランティアの参加もお願いし、この教育を盛り上げたいと考えています。

昨今子どもたちの理数科教育離れが心配されています。このプログラミング教育をきっかけとして、理数科に関心を持ち、「ものづくり愛知」を支える子どもたちが輩出できたらと思います。理数科に強い人材育成という面でも大切な事業となりそうです。

紫陽花に隠れて立つや龍神堂  
プラハへの渡航の知らせ若葉風  
遠山に雲たなびきて蓮見会

令和4年7月8日  
津島市教育委員会  
教育長 浅井厚視